

NEWSLETTER

2021 年度研究関連活動報告

COVID-19 感染拡大も 2 年目に突入。猛威は衰えることがなく、日常生活が制限される日々が続きました。しかし、この間にオンライン上で様々な催し物が積極的に開催されるようになり、社会の変化を肌で感じる年となりました。外教学会の 21 年度の研究関連活動は、この変化に我々言語教育に携わる者がどう臨むべきか示唆に富むものでした。

◆第 15 回 関西大学外国語教育学会 研究大会 (オンライン開催)

- ・テーマ：コロナ禍で加速する Society5.0、言語教育の行方とは
- ・講師：小張敬之先生 (青山学院大学教授)
- ・日時 2021 年 3 月 13 日 (土) 13:30-16:30 (Zoom Open: 13:00~)
- ・参加費：無料
- ・申込開始：2021 年 2 月 1 日 10:00AM~ 定員:100 名

ープログラムー

第 1 部 理論編 13:40-14:40

-Dominus illuminatio mea- コロナ禍で見てきた言語教育の在り方

第 2 部 実践編 14:50-16:20

AI 時代の授業デザインとツール活用法

◆関西大学外国語教育学会秋季研究会 2021 (オンライン開催)

- ・テーマ：タスク・ベースの言語指導とはなにか、どうやって実践するか
- ・講師：田村 祐 先生(関西大学外国語学部)
- ・日時 2021 年 10 月 30 日(土) 13:00~15:50
- ・参加費：会員・非会員(無料)
- ・申込：2021 年 9 月 30 日(木)10:00~10 月 29 日(金)17:00 の期間 (Google フォームにて受付)

ープログラムー

第 1 部 13:10~14:00

<理論編>

14:00~14:10 休憩

第 2 部 14:10~15:30

<実践編>

質疑応答 15:30~15:40

第15回研究大会

「テーマ：コロナ禍で加速する Society5.0、言語教育の行方とは」

講師：小張敬之先生（青山学院大学教授）

今回、小張先生には AI 時代の授業デザインとして実践編では、Facebook を LMS として活用した先生ご自身の実践を紹介いただくとともに、PeerEval というオンライン上で学生間評価がリアルタイムでできるアプリを使った Workshop を実施していただきました。PeerEval の Workshop では、Zoom のブレイクアウトルームを利用して、小グループに分かれ、一人ずつ短いスピーチをして PeerEval で評価をする活動をしました。普段、スピーチすることも評価されることもないので、緊張度 Max で臨みました。

このアプリのいい点は、学生が匿名性を保持しながら、あらかじめ設定された評価基準をクリックするだけで、即時にクラスメイトのプレゼンテーションを評価でき、発表者も他の人の評価がすぐ見られる点で、双方にとっていい刺激になると感じました。また、教員にとっては、評価の結果がデータベースに保存されることから、活動後の集計等にかかる時間を削減できるというメリットがあります。全て英語で表示されるのが、日本語教育を専門とする者としては残念でしたが、使い勝手のいいアプリだと思いました。

実践編の前の理論編では、今後、教育に携わる私達が、現場での実践はもとより人として何を大切に人生を生きるべきか、科学哲学・神学に基づいた世界観・神観を基に形而上学的観点からお話いただきました。

テーマのキーワードにも挙げられていますが、日本では近年 Society5.0、一サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society）内閣府ホームページより引用—や DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が頻繁に耳にするようになりました。

約 2 年に及ぶコロナ禍で、仮想空間と現実空間の距離が一気に縮まったことで、前回講演くださった中嶋先生のお話に出てきた VUCA—不安定さ (Volatility)、不確実性 (Uncertainty)、複雑さ (Complexity)、曖昧さ (Ambiguity)—に拍車がかかったように感じます。このような先の見えない時代を生き抜くため若い世代にどのような資質・能力を育成すべきかについては、多くの議論がなされています。よく知られているものとしては「教育の 4 つの次元」（C・ファデル、M・ビアリック、B・トリリング,2018）1）知識の次元、2）スキルの次元、3）人間性の次元、4）メタ学習の次元を挙げることができるかと思います。小張先生はこれらに加えて、他者や他集団を敬意を持って受容・共感し、貢献する意識を育むこと、他者と協力しあう心と協働しあう力を育むことの重要性に触れられていました。

未曾有の COVID-19 感染拡大から、我々はある一つの事象の影響は瞬く間に地球全体に及び、その問題を解決するためには、多様な文化的・言語的背景を持つ人々の協力・協働が不可欠だということを学びました。

小張先生のお話から、この VUCA の時代だからこそ言語教育が持つ多様性への気づきを促す力が必要となるのではないかと感じました。（文責：戎 妙子）